

2021 年度 小委員会活動成果報告

(2022 年 1 月 24 日作成)

小委員会名	キャンパス・リビングラボ・デザイン小委員会	主 査 名：小篠隆生 就任年月：2021 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	都市計画委員会	委員長名：野澤 康 主 査 名：
設 置 期 間	2021 年 4 月 ～ 2023 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	(設置目的) 大学キャンパスを利用したリビングラボ[※]による持続的な空間形成・発展メカニズムは、まさに現在の都市にこそ必要不可欠かつ重要な要素であることから、本小委員会の設置目的は、キャンパスが都市デザイン創出の実験場であることを最大限生かし、新たな都市生活に必要な空間づくりの方法論を、都市に対し実践的に提案することである。 初年度：【After コロナにおける生活圏の空間計画のあり方検討】 ①2020 大会の中止で延期になった研究懇談会（都市と大学のリデザインに向けたリビングラボラトリの可能性）の実施による論考 ②学会大会時にオーガナイズドセッションの企画、開催による討論と問題解決のための方向性の模索 ③キャンパス利用実態調査の取りまとめと論文発表 2 年度：【After コロナにおける生活圏の空間計画・設計手法の検討】 ①学会大会時にオーガナイズドセッションの企画、開催 ②公開連携研究会の開催 研究会もリビングラボの仕組みを利用し、市民、大学、企業、行政など異なる立場の参加者を交えて開催し、生活圏における空間デザイン手法の検討。前小委員会も含め 4 年の活動総括と課題抽出。 ※リビングラボとは「生きた実験室」と直訳できるが、実験的・構築的プロセスを含む大学と都市の相互作用の場と定義でき、多様な主体が計画・企画などプロジェクトに主体的に関わる都市デザインのプラットフォームとして捉えられる。	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無 主査：小篠隆生（北海道大学） 幹事：安森亮雄（千葉大学） 吉岡聡司（大阪大学） 委員：池見祥見（大阪大学） 岩崎克也（東海大学） 小貫勅子（東北大学） 小野尋子（琉球大学） 笠原 隆（文部科学省） 斎尾直子（東京工業大学） 土田 寛（東京電機大学） 恒川和久（名古屋大学） 平 輝（東京工業大学） 福島孝則（東京農業大学） 薬袋奈美子（日本女子大学） 脇坂圭一（静岡理工科大学）	
設置 WG (WG 名：目的)		
2021 年度予算	220,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/toshi/s1/Campus/Home.html

項 目	自己評価
委員会開催数	6 回（年度内計画を含む） 5/18,9/7,9/9,11/11,12/3,3/26
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	

催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	1. 研究会「大学と地域の新たな連携 ー地域連携からキャンパスリビングラボへー」参加者数 名 (2022.03.26 開催予定) 資料集を作成予定.
大会研究集会	1. 研究懇談会「都市と大学のリデザインに向けたリビングラボの可能性」 参加者数 65 名 資料集 都市と大学のリデザインに向けたリビングラボの可能性 2. オーガナイズドセッション「大学キャンパスが都市空間に貢献する新たな関 係を見出すための計画とは？」 応募論文 12 題 参加者数 50 名 資料名なし
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. 研究懇談会では、リビングラボの都市空間デザインに対する可能性を明らか にする論点として、①生活実践がそのままフィードバックされた実証実験の世界 である社会性の強いリビングラボと、②よりチャレンジングな実験場としてのキ ャンパスでのリビングラボで、キャンパス空間でのトライアルを都市でのモデル として実践するプロセスの重要性が導かれた。 2. OS では、前年度に行った、コロナ禍においての学生の行動変容と意識変化 を調査分析した論文を5篇発表し、大きく変容する学生の意識や行動の実態と、 キャンパスで学生が重視している交流空間の重要性を再確認した。
委員会活動の問題点 ・課題	1. コロナ禍で見学会などの実施ができなくなっている。(2022 年 3 月には再開 予定) 2. 次期に向けた小委員会のあり方の検討